

## 令和3年度 第27回田原本町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

開催日時 令和3年12月20日 13時30分～14時20分

場所 田原本町役場 町民ホール

出席者 松石委員（代理出席）、葛本委員、東委員（代理出席）、山田委員  
上田委員（代理出席）、服部委員、大橋委員、山岡委員、中西委員  
吉田委員、東委員（代理出席）、野畑委員（代理出席）、牧田委員  
住井委員、田邊委員、斎藤委員（代理出席）

### 1. 開会

（事務局）

第27回田原本町地域公共交通活性化協議会は、出席委員16名で委員総数の過半数の出席により会議は成立。

### 2. 挨拶

（住井会長）

会長挨拶

### 3. 議事

議事の第1号「田原本町地域公共交通計画（素案）について」

（事務局）

資料1：田原本町地域公共交通計画（素案）

計画案として現時点で記載できる事項等を記したものを素案として説明

- ・ 計画の目的
- ・ 田原本町の公共交通を取り巻く現状と課題
- ・ 計画の方向性

（質疑応答）

（服部委員）

公共交通ということで、唐古・鍵遺跡史跡公園とも絡めて考えたらよいのではないか。唐古・鍵遺跡史跡公園でイベントをすることが多いが、それに対して駐車場は少なく道の駅の駐車場も満車になる。駐車場を増やすことは現状難しく思うので、イベントがある際はバス

の運営をして頂きたい。機構としては、電動自転車の貸し出しをしているが台数に限りがあるのでバス事業があればありがたいと思う。

(事務局)

唐古・鍵遺跡史跡公園についてはバスルート停留所の候補地として絡めていくつもりである。またイベントの際の話だが、定時定路線コミュニティバスの規模では対応できないと思うので、その都度イベントごとに駅からシャトルバスの運行を検討して対応していくことになると思う。

(中西委員)

資料1、36ページにある全体構想の中で3つのエリアのバスルートを検討しているということだが、それぞれ利用者数の想定をしているのか。

(事務局)

具体的な利用者数は現在想定できていない。今現在、ルート運行上通るであろう地元に対して、要望等聞き取りをしているところである。

(東委員)

資料1、21ページにタワラモトンタクシー利用時の主要な出発数・到着数とあり、その他の割合が多くを占めているが、以前の協議会でその他に関してはほぼ利用者の自宅ということであったのでデータ上省いて、それ以外で分析してもいいのではないか。

2点目、23ページの(7)、自動車保有台数の多さから自動車依存が高いとあるが、何と比較して高いのか、県、全国、同規模の自治体、具体的な記載があればわかりやすい。

3点目、24ページに田原本町からの流出人口について記載があるが、逆の流入人口についてのデータもあるのか。

(事務局)

1点目について、その他部分に関しては言われる通り利用者の自宅などが主に記載されている。こちらに関して施設名等に絞っての記載を検討する。

2点目、自動車保有台数について平成23年度のデータで見たとき、県全体では1.18台、当町では1.37台となっている。ほかの比較対象についても記載させて頂く。

3点目、流入人口についての記載がないとのことで、こちらが国勢調査の結果を反映しているものであり今現在では平成27年データが最新となっている。そちらのデータをもとに流入人口についても記載する。

(東委員)

資料1、33ページに関連計画についての記載があるが、観光関係の計画はないのか。

続けて34ページ、基本方針が3つあるがどのような過程でこの3つになったのか。唐突に出てきたので、基本理念から基本方針が導き出された経緯を記載して頂きたい。

また、34ページ以降、基本施策と事業について3つあるが、例えば38ページにあるタワラモトンタクシーの今後の見直しについて、計画の中ではここまで具体的に書く必要はないかと思う。内容については今後、協議会の中で議論していき、計画の中では大きな方向

性の記載だけでいいかと思う。

最後に1点、43ページにある数値目標の設定について、目標値欄が検討中となっているのは現時点での話であって、今後計画作成の際には具体的な数値が入るという認識でよいか。

(事務局)

1点目について、観光基本計画があるので記載させて頂く。

2点目、言われたように基本方針が唐突に記載されているので、基本理念から基本方針に至った経緯等もう少し具体的な表現を挟んで記載する。

3点目、タワラモトタクシーの今後の見直しについて、現時点では方向性の位置づけまでとしており、今後具体的などころについては協議会にて協議していく。

最後、資料1の43ページ、数値目標の設定について、こちらも現時点での指標を挙げている。計画策定時には具体的な数値を入力する。

(住井会長)

続いて、議事の第2号「定時定路線型コミュニティバスについて」事務局より説明願う。

(事務局)

資料2：定時定路線型コミュニティバスにおける車両について説明

・ハイエース車両、セダン車両についてそれぞれ比較

(質疑応答)

(住井会長)

前回、小型バスとしてハイエース程の車両を想定していたとのことだったが、今回新たにセダン型車両を検討とのこと、実際にセダン車両を運用している自治体の事例はあるのか。

(事務局)

山口県山口市や福岡県中間市では、このようなセダン車両を用いた定時定路線バスの運用がされている。

(葛本委員)

プランが小型バス車両とセダン車両と2つあるが、両方とも使用するわけではなく、どちらか一方を今後検討していくということか。また、セダン車両を用いるとなった場合、以前運行していたデマンドタクシーの時と同じく特定の事業者が運行するのか。

(事務局)

両方のプランを使うわけではなく、実際に走るルートを設定した際の停留所や乗客の需要を考慮しながらどちらのプランを使うのか検討していく。運行するとなった場合はおそらく委託することになると思うが、委託業者についてはこれからの検討であり、町内事業者に

するか、広く町外から公募するのか現時点では未定である。

(住井会長)

山口市でセダン車両の定時定路線の運行事例があるということだったが、それは地域的に運行しているのか、それとも市全体でセダン車両を運行しているのか。

(事務局)

山口市では特定の地域で運行している。地域とタクシー事業者が契約し、定時定路線で運行しており、市の関わり方としては公共交通を支えるひとつの事業として補助している。また、福岡県の中間市では路線バスが走っており、それで充足できていないエリアにおいてセダン車両を運行している状況である。

(東委員)

資料2の停留所についてハイエース車両とセダン車両で区分されているが、どちらであっても大きな差はないと思う。ただ大きい車両だと、細い道などで停車する際は困難だとは思っている。また全体の進め方としてはニーズを見て実証運行し、それから本格運行という認識でよいか。

(事務局)

停留所についてセダン車両の方がハイエース車両と比べると小さいため小回りが利くと思われるため差別化したもの。全体の進め方としては、現在、各地元に聞き取り中でまずは実証運行、その後本格導入を検討している。

(服部委員)

旧町内は狭い道が多いため、セダン車両やもう少し大きな7、8人乗りの車両等ならどこでも運行できるのではないかと思う。大きい車両にこだわらず、柔軟に検討して頂ければと思う。

(山田委員)

定時定路線バスについては早急に進めてほしいと思う。実証運行する時期はまだ未定なのか。また、ふれあいセンター等に行く際のバスがあると思うが、使っていない時間にそのバスを活用することはできないのか。例えば先ほど委員からあったようにイベント時等に活用できないか。

(事務局)

自治会での使用等事前に予約が入っているので、フル活用はされていないであろうが、定時定路線の運行には使えないと思う。また、運行の時期については来年度目途に導入したいと思っているが、今後の協議次第となる。その辺も含めて地元との協議を進めていく。

続いて、次第の4「その他」について事務局からなにかあるか。

#### 4. その他

(事務局)

今後のスケジュールについて説明

計画案の作成を進め、次回2月に協議会開催、その後パブコメを踏まえて計画策定を目指す。

(住井会長)

他に質問、意見等ないようなので、本日の議事はすべて終了。  
長時間に亘りご協力いただいたことの御礼。進行を事務局にお返しする。

5. 閉会